

英字新聞ヘッドラインで使用される レトリックについて —スポーツ欄を考える—

鈴木 繁幸

1.はじめに

新聞報道記事 (straight news) はいわゆる「逆ピラミッド型」(the inverted pyramid style)で書かれている。逆ピラミッド型とは新聞報道記事に固有の書き方であり、ここでは記事の最初に書かれる見出し(headline)が一番重要なことを簡潔に伝える。そして、一つの見出しで記事内容を伝えきれない場合には副見出し(sub headline)がそれに続く。見出しの次に来るのは書き出し(lead)である。書き出しとは最初の第 1 段落を意味する。そして次の段落以降を本文(body)と呼ぶ。本文は数段落からなっており、1 記事の長い米国の高級紙(quality papers)では記事が別のページにまで続くことが一般的である。各記事に書かれている内容の重要度は段落が下に行くにつれて落ちて行く。一般的に英字新聞においては、書き出しと本文は段落の違いによってのみ分けられる中で、*The Japan Times* がその日の第 1 記事の書き出しのフォントサイズを変え、読みやすくしているのは日本的な心遣いと言えるかもしれない。

逆ピラミッド型が採用されている理由として、書き手側と読み手側の都合が考えられる。書き手側の理由としては、後から入電した新しい記事を入れるためのスペースを作る際に、すでにレイアウトしてある記事の、最終段落やそれに近い部分は逆ピラミッド型ゆえ重要度が低いので、削除しても問題がないため大胆に切り落とすことができるのである。

読み手側にとって良い点は、重要な部分が一番初めの見出しに来ているので、ひと目で記事内容を把握でき、記事をゆっくり読む時間のないような朝の出勤時などでも、大まかなことを把握できるという点である。このように読み手と書き手の利害が一致し誕生したのが逆ピラミッド型である。

ただし、逆ピラミッド型の中で一番重みを持つ見出しには、いろいろなレトリックが使われており、非英語圏の我々には一筋縄では行かないのが現状である。また、欧米の新聞では記事の書き手を記すのが一般的である。つまり、by line によって署名を入れ、誰がその記事を記したかを明らかにしているのである。これを署名記事と呼ぶ。昨今日本の新聞でも増えてきてはいるが、欧米のそれと比較するとまだまだ非常に少ないのが現状である。このような署名入り記事の特徴に関し鈴木（2006）は次のように考えた。

著作権に対する考えのしっかりしている欧米では、新聞記事に関しても同様の姿勢を貫いている。by line によって記事の出所をはっきりさせることで剽窃を防ぎ、かつ責任の所在をはっきりさせることによって書き手に対し自らが書く記事に責任を持たせている。この事を書き手の視点に立って考えると、書き手として自分の名前の付いた記事を読者に読んでもらえるか否かは大問題であるので、そのためには記事の見出しが重要性を持つことは言うまでもない。だが、見出しがその後の記事内容をすべて語ってしまえば、記事を読む必要はないわけで、そこで記事を示唆しつつ興味を持たせる技術が見出しには求められるのである。(p.163)

2.多用されるレトリック

新聞という、事実を報道する媒体の特徴を考えた際には、レトリックを用いることなく単刀直入に見出しを記すことがその本来のあるべき姿と考えられるが、上記のような by line の存在理由を考えると、レトリック多用の理由も納得が行く。その中でも多く使用されるレトリックにメタファー（隠喩）がある。渡部ら(1999)はレイコフとジョンソン(1980)を次のように翻訳している。

メタファー（隠喩）といえは、たいていの人にとっては、詩的空想力が生み出す言葉の綾のことであり、主事的な文飾の技巧のことである。つまり、通常用いる言語というよりは特別改まった表現をする際の言語のことである。それに、メタファーというのは言語だけに特有のものであって、思考や行動の問題で

あるよりは言葉遣いの問題であると一般的には考えられている。したがって、大部分の人はメタファーなどなくとも、日常生活はなんら痛痒を感じることなくやってゆけるものと考えている。ところが、われわれ筆者に言わせれば、それどころか、言語活動のみならず、思考や行動にいたるまで、日常の営みのあらゆるところにメタファーは浸透しているのである。われわれが普段、ものを考えたり行動したりする際に基づいている概念体系の本質は、根本的にメタファーによって成り立っているのである。(p.3)

このメタファーの機能から考えると、メタファーの使用範囲は広く、新聞のヘッドラインで使用されることも至極当然と考えられる。ここからもわかるように、メタファーは一般的に考えられている以上にわれわれの生活に深くかつ密接に結びついている。そして、一見するとメタファーとは考えられない表現も、メタファーの性質を持っているものであることが多いのだ。

本研究では、英字新聞スポーツ欄のヘッドラインで使用されるレトリックに注目し、その特徴を調査することとした。そこでは言葉遊び的な、掛詞としての pun が隠喩とともに多く使用されている。このような掛詞を本論文の著者は、metaphorical pun :MP (隠喩的掛詞) と呼ぶこととする。一般的報道記事とスポーツ記事を比較すると、MP をレトリックとして用いる報道記事は、スポーツ欄で特に多い。その理由を考えると、スポーツ以外の報道記事の場合は掛詞を用いることによって軽く思われたり、不謹慎に思われたりする可能性があるため、それを避けるためと思われる。一方スポーツ欄では「オンパレード」のように掛詞が使用される。これは、スポーツが「娯楽」として定着しているために他ならないと考える。

ここで、pun の定義を COBUILD 第5版(2006)で見ることにする。

pun A pun is a clever and amusing use of a word or phrase with two meanings, or of words with the same sound but different meanings.(p.1158)

このように、面白おかしく表現したものを pun と考えると、pun が使用されるのは慎重な discourse ではないと定義できよう。日常会話のディスコースにおいても、pun の使用される状況を考えると、

慎重でまじめな会話で使用される確率はきわめて低い。このような事実を考慮に入れて pun がスポーツ欄で多用されることを考えると、やはり堅苦しくない、リラックスした環境の中で使用されていると考えられる。そのような「一服の清涼剤」のような状況の下のスポーツ欄で MP の多用が見られるのであろう。

3. 実例研究

3.1. Advancing Storm leaves Woods in shade

Monday, March 24, 2008 *The Guardian*

この見出しは次の書き出しに続く。

There will be better days to come in the golfing life of Graeme Storm although the former cake factory worker turned European tour pro will have taken some convincing of that yesterday after shooting a nine-under 63 to give himself a chance to win the \$1.4m (£0.7m) winner's cheque at the CA Championship.

これは英国ガーディアン紙からの記事である。スポーツ欄であるので、見出し語の Woods はタイガー・ウッズ選手であると推測できるが、一見すると、台風がやってきてウッズ選手が木陰にでも隠れたのかと思ってしまうが、記事の書き出しを読めば事の次第がわかる。

Storm の大文字の S が示すとおり Storm とはイングランドのグレイム・ストーム選手のことである。ストーム選手の苗字と storm (嵐) を見事に掛け表している。ケーキ工場の工員であった同選手が今回の試合でタイガー・ウッズ選手より良い成績を出しており、このまま行くと優勝して140万ドルを獲得しそうであるとの内容を、まるで嵐がやってくるかのごとく、ストーム選手に迫られているタイガー・ウッズ選手の状態を、MP で表している。

また、in shade という前置詞句は本来なら in the shade であるが、見出しの特徴として、冠詞を省略することが普通であるので、the が省略されていると考える。in the shade は日本語同様「木陰に追いやる、陰で」の意から「人に忘れられて、人目につかないで」の隠喩的意で使用される。予想外の選手であるストーム選手の出現で、タイガー選手が窮地に追いやられている姿が手に取るようにわかる見出しである。

3.2. Monty feasts on Kiwis

Thursday, March 27, 2008

The Daily Yomiuri

この見出しは次の書き出しに続く。

Napier, New Zealand (AP)- Monty Panear returned test-best figures of six for 126 as England beat New Zealand by 121 runs in the third test Wednesday and clinched the three-match series 2-1.

この記事はわれわれ日本人にはなじみの薄いスポーツであるクリケットに関する記事である。この見出しを文字通り解釈すると、「モンティがキーウィを食べた。」となるが、実際の内容は当然ながらそうではない。そもそもニュージーランドの国鳥であるキーウィは現在食用が禁止されている。食用禁止のキーウィを食べることを連想させることで、読者の注意を引こうとしていることは想像に難くない。

3.3. Suns melt down Nuggets

Stoudemire leads Phoenix to comeback victory with 41 pts, 14 boards

Wednesday, April 2, 2008

The Daily Yomiuri

この見出しは次の書き出しに続く。

PHOENIX (AP) - As Amare Stoudemire stood at the foul line with 1:42 remaining, chants of "M-V-P, M-V-P" reverberated from the sellout crowd at U.S. Airways Center.

アリゾナ州フェニックス発 AP 電である。この見出しを直訳すれば「太陽が金塊を溶かす。」となりバスケットボールの記事とは到底考えられない。だが、最初の単語には Suns と s がついて複数形になっているため、Suns が太陽以外の何かを指すことはわかるが、見出しを読んだだけでは腑に落ちないので、記事に興味を持ちその後の記事を読むのである。

副見出しと書き出しを読むと理解できるように、これはバスケットボールのフェニックスサンズがアマレ・スタッドマイヤー選手の 41 点もの活躍でデンバーナゲッツに勝利した試合を記事にしたものである。ここではバスケットボールのチーム名(Suns)を太陽

(sun)との MP で用い、melt down という句を比喩的に用いることで、フェニックスサンズの大勝利を伝えているのである。

3.4. Consadole unconsolable after Tokyo bounces back with 1st home win

Sunday, April 6, 2008 *The Daily Yomiuri*

これは、我国のサッカーJ リーグに関する記事である。この見出しは次の書き出しに続く。

Having lost out to Tokyo Verdy in the Hulk sweepstakes, Consadole Sapporo already had their reasons to be disappointed this week. But the other Tokyo club decided to worsen matters for Toshiya Murai's side by dealing Consadole their fourth defeat in five games.

東京ベルディーにすでに負けていたコンサドーレ札幌であったが、この試合で FC 東京にも負け、5 試合中 4 試合を落とすと記している。形容詞 unconsolable (慰めようのない) の発音が Consadole と似ているので、MP として掛詞で用いたと考えられる。接続詞 after 以降の節では、この試合はサッカーの試合であるので、動詞 bounce (ボールなどがはずむ) を隠喩で用い、FC 東京の本拠地での半年振りの勝利を記している。なお、書き出し中の Hulk とはブラジル人選手の名前である。

3.5. Holliday season

Hits 2-run homer to help Rockies overcome Glavine gem

Wednesday, April 9, 2008 *The Daily Yomiuri*

この見出しは次の書き出しと本文に続く。

Denver (AP) - Matt Holliday missed a chance to get the big hit in the sixth inning.

He nailed his chance in the eighth.

Holliday hit a two-run home in the bottom of the eighth. Aaron Cook pitched seven strong innings and the Colorado Rockies snapped a five-game losing streak with a 2-1 win over the Atlanta Braves on Monday night.

デンバー発 AP 電による米国大リーグコロラドロッキーズ対アトランタブレーブスの試合に関する記事である。ロッキーズのマット・ホリデー選手が 6 回の打席では逃したチャンスを 8 回の裏では見逃さず、走者を一人置いた 2 ランホームランを打ったのだ。アトランタブレーブスに 2 対 1 で勝利をし、5 試合連続負け試合に終止符を打つことができたことと記している。実際に holiday season (休暇) の時期ではないが、holiday のようなうれしさである状態を表す見出しとして、ホームランを打った Holliday 選手の名を MP を用いて見出しを作り、注意を引いている。副見出しに現れている Glavine とはロッキーズのピッチャーであり、6 と 1/3 回を無安打で押さえた Glavine 選手のことである。活躍を gem (宝石) とすることで、Glavine 選手の活躍がすばらしく、Holliday 選手がホームランを打ち Glavine 選手の活躍を無駄にすることなく乗り切った (overcome) と記している。

3.6. Rose blooms early again

Englishman tops Masters after 18 holes for 3rd straight year; Woods 4 back

Saturday, April 12, 2008 *The Daily Yomiuri*

この見出しは次の書き出しに続く。

Augusta, Ga. (AP)- The Masters had a familiar feel Thursday, from the warmth of a spring garden to the pockets of cheers that celebrated spectacular shots, even to some of the names on the leaderboard.

この見出しは一見するとスポーツとは関係なく「バラの花が再び早咲き。」としか考えられないが、副見出しを読むと、ゴルフのマスターズの結果を伝えていることがわかる。イギリス人の Rose 選手が良い成績で一日を終えたとの記事である。バラの花 (rose) と咲く (bloom) とを掛け合わせて使用することで見出しに注目させ、記事を読むことで Rose がゴルフ選手のことであると理解させるというレトリックとなっている。つまり、ローズ選手の成績が良かったため、「バラが咲いた」(Rose blooms) とし、人名の Rose とバラの花の rose を MP で掛けているのである。一見しただけでは何の見出しかわからないため、興味を持ち書き出しを読むのである。

3.7. Warriors blinded by Suns

Wednesday, April 16, 2008

The Daily Yomiuri

この見出しは次の書き出しに続く。

PHOENIX (AP) - The Phoenix Suns recovered from what nearly was an embarrassing stumble and eliminated Golden State from playoff contention.

この見出しも 3.3 同様バスケットボールの試合に関する記事であるが、一見しただけでは、「兵士が太陽によって盲目にされる。」となり、意を解さない。そもそも、最後の単語には Suns と s がついており、前述 3.3 の見出し同様太陽以外の何かを指すことはわかるが、見出しを読んだだけでは腑に落ちないので、記事に興味を持ちその後の記事を読むのである。

書き出しを読むと理解できるように、バスケットボールのフェニックスサンズが勝ち、その結果ゴールデンステートウォリアーズ（カリフォルニア州）のプレイオフ進出が阻まれたのである。その状態を表すレトリックとして Suns が勝利したことを示唆するために blinded を比喻で用い、warriors(兵士)があたかも太陽光線(sun)によって盲目にされたかのごとく書くことでサンズの勝利を表している。つまりここでは、warriors と Suns が MP で使用されている。

3.8. Yoshimi grounds Swallows

Monday, April 28, 2008

The Daily Yomiuri

この見出しは次の書き出しに続く。

Dragons right-hander Kazuki Yoshimi looked almost human on Sunday.

これは日本のプロ野球に関する記事見出しである。中日ドラゴンズがヤクルトスワローズに 4 対 2 で勝利した試合に関する記事見出しであり、吉見一起投手を主語とした見出しである。一見すると「吉見がツバメを落とす。」との意に考えられるが、もちろんここでは Swallows が野球のチームであるヤクルトスワローズを表している。swallow は鳥のツバメであるので、これを MP とし「吉見選手がツバメを落とす(grounds)」→「スワローズに勝った」と連想させるレトリックを用いている。前述のように吉見選手は投手であるので、

ground を動詞で用いる事で、いっそう躍動感を感じさせられる。

3.9. Celtics finally ground Hawks

Tuesday, May 5, 2008 *The Japan Times*

この見出しは次の書き出しに続く。

Boston(AP)- After using their home-court advantage to the fullest, the Boston Celtics get no respite.

これは米国のプロバスケットボール (NBA) の試合に関する記事見出しである。ちなみに、3.8 は読売の記者である Jim Allen 氏の名が by line として記されており、3.9 はボストン発の AP 電であるので、新聞社は異なり、記事の書き手も異なる 3.8 と 3.9 であるが、ここでは共通のレトリックが用いられていることが興味深い。つまり、ここでは他動詞 ground の目的語に当たる語が Hawks (鷹) であり、3.8 の Swallows 同様鳥を表しているので結果的に同じ MP となっている。MP を考えず、見出しをそのまま考えれば、「ケルト人がついに鷹を落とす。」となり、意を解さないの、それにつられ読者は記事を読むのである。

ここでは、ボストンセルティックスがアトランタホークスに 99 対 65 で勝ったことが ground を比喻として用いて表されている。

3.10. Dragons ride Wada, Nori to victory

Saturday, May 10, 2008 *The Daily Yomiuri*

この見出しは次の書き出しに続く。

The third time was no charm for Tetsuya Utsumi as a pair of Dragons veterans drove in three runs apiece to beat the young Giants southpaw for the third time this season.

Chunichi's Kazuhiro Wada, 35, and Norihiro Nakamura, 34, plated three runs apiece on Friday at Tokyo Dome as the Dragons came from behind to beat the Yomiuri Giants 7-4 and move to within a game of the Central League lead.

この見出しも直訳すると、「龍が勝利のために和田とノリに乗る。」となり、意を解さない。日本語でも、「活躍に乗る」との隠喩表現があるが、ここではチーム名が Dragons (龍) であるので MP の意が

しっかりと生かされている。ただ、Dragons が和田一浩、中村紀洋 両選手に乗る(ride)することで、逆説的となり一層注意を引く見出し となっている。

3.11. Rays sting Yanks, swim to top

Thursday, May 15, 2008

The Daily Yomiuri

この見出しは次の書き出しに続く。

ST.PETERSBURG, Fla. (AP) - Six straight wins. Eleven in a row at home. First place in the AL. East.

The Tampa Bay Rays realize it's only mid-May, but they're having a ball during the best start in franchise history.

フロリダ州セントピーターズバーグ発 AP 電の、米国大リーグに関する記事である。タンパベイ・レイズがニューヨーク・ヤンキーズに勝ち、地区のトップに躍り出た様子を MP を巧みに使い表している。

ray とは魚のエイの事であるから、本見出しを MP を考慮せずに文字通り理解しようとするれば、「エイが米国人(Yanks)を刺し(sting)、上へと泳ぐ」となる。stingray (アカエイ) という文字通り有毒で人を刺すエイがいるので、それを連想するように動詞 sting を比喩的に用い、ニューヨーク・ヤンキーズに 2 対 1 で勝利した様子を表している。そしてその結果として、東地区の 1 位となった事実を、エイが泳いでいったことを連想させるように同じく swim を比喩的に用いているのである。

4.まとめ

NIE (Newspaper in Education) — 「教育現場に新聞を」 — は、学校などで新聞を教材として活用することである。1930 年代にアメリカで始まったとされ、我国では 1980 年代半ばの新聞大会で提唱されたのが始まりとされる。日本新聞教育文化財団のホームページ (<http://nie.jp/info/index.html>)によると、NIE は 2006 年 4 月現在、世界 64 か国で実施され、民主主義を支えていると記している。また、同ホームページには経済協力開発機構 (OECD) の「生徒の学習到達度調査 (PISA) 2000 年」も引用されており、そこには子どもたちの総合読解力と新聞の閲読頻度に相関関係があることが記さ

れている。そして、新聞閲読頻度が高いほど総合読解力の得点が高いという傾向にも触れている。

このような理由から、大学の英語教育においても NIE をより積極的に取り入れることが望ましいと考える。ただ現状を考えると、積極的に NIE を取り入れている大学はまだ少ない。その理由として考えられるのは、ヘッドラインの難しさであろう。各記事を読む際に、最初に対処しなくてはならないのがヘッドラインであるが、そこにもろもろのレトリックが使われているため、結果的に一番扱いにくくなっている。

本研究からもわかるように、ヘッドラインを理解する際に問題になるのは、語彙の難易度だけではない。その使用されているレトリックを理解する文化的知識も必要となるのだ。

なお、本研究での参考資料は *The Daily Yomiuri* が主だったものとなったが、外国でのスポーツが大半であるために必然的に通信社電も多数含まれた。そのために研究対象が読売に偏ったものだとの批判は必ずしも当たらないものと信じる。

5.参考文献

- Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary*.
Fifth Edition (2006).
- 小西友七・南出康世.(2001).『ジーニアス英和大辞典』.大修館書店.
- Lakoff, G., & Johnson, M. (1980). *Metaphors We Live By*.
Chicago: The University of Chicago Press. Trans. 渡部昇一・
楠瀬淳三・下谷和幸.(1999).『レトリックと人生』.大修館書店.
- 卷下吉夫・瀬戸賢一.(2001).『文化と発想とレトリック』.研究社.
- Matsukura, N. (松倉信幸) (2005). On passive occurring in
newspaper headlines.『鈴鹿国際大学紀要 CAMPANA』, 11,
47-152
- 野内良三.(2000).『レトリックと認識』.日本放送出版協会.
- 瀬戸賢一.(1995).『メタファー思考』.講談社現代新書.
- Shibuya, K. (渋谷和郎) (2001). Teaching metaphor with visuals: A
lesson plan for teaching metaphor to ESL learners by using
pictures.『日本英語英文学』, 11, 59-78.
- 鈴木繁幸.(2001).「海外旅行者の知っておくべき英語表現について」.

『観光産業』, 18, 51-61.

鈴木繁幸. (2005). 「ある英字新聞の記事見出しに現れるメタファーに関する一考察」. 『東京家政大学研究紀要』, 46(1), 159-165

鈴木繁幸.(2008). 「英国ウエスト・サセックス州で発行されている新聞のヘッドライン研究」. 『東京家政大学研究紀要』, 48 (1), 143-148

谷口一美.(2006). 『認知意味論の新展開 メタファーとメトニミー』.
研究社.

参考 URL

日本新聞教育文化財団

<http://nie.jp/info/index.html>